

## 《第3回 ICD特別賞受賞者》

## ICD Award・特別賞（'22年度）を受賞して

元ICD国際会長（'20, '21年度）  
愛知学院大学名誉教授

千 田 彰



## ●抄 録●

著者はICD日本部会2022年度ICD Award・特別賞を授与された。著者の学界での国際活動の背景とICDフェローとなったのちのICD日本部会での国際貢献およびモンゴルでの1997年以来、2019年の大学定年退職まで実践した歯科医療・医学援助、交流について紹介している。

キーワード：国際活動、国際貢献、モンゴル

ICD Award・特別賞（2022年度）の顕彰を頂き、長きにわたり、ご指導とご鞭撻を頂いているICD日本部会のフェローの皆様深く感謝申し上げます。

私がICDを知ったのは1975年頃であったが、「ICDという歯科医師の国際組織がある」という程度の認識であった。

私の専攻「保存修復学」の極点である「審美歯科・接着歯学」を詳細に記述した「Esthetic Composite Resin」(R.E. Jordan著)との出会いは、私にとってICDへの接近の一步でもあった。著者Jordan教授のもとでカナダのWestern Ontario大学のVisiting Professorを務め、チームの片隅に置いてもらったことが私の国際的な活動の基盤となり、またJordan教授を支えて活躍していた鈴木 信教授から「ICDのフェローになりなさい」という声かけを頂いたことも私とICDの距離を縮めた。1997年に栗山純雄マスター、(故)中川武幸フェローの推薦を受けてフェローとなり、入会直後から日本部会の国際交流に関わらせて頂き、2006年10月には国際理事としてLas Vegasでの国際理事会に出席した。会場の巨大なホテル(MGMグランドホテル)で会議会場を探しているとき、偶然アメリカ部会の新国際理事Dr. Joseph Kenneallyと出会い、二人で会場を捜した。以降彼

とは意気投合して個人的な友人としてもお付き合いをすることになり、ICD国際理事会も身近なものとなった。彼はのちに国際会長になり、私の国際会長期(2020年度)には事務局長(Secretary General)として国際本部に採用されて現在も活躍している。このようにICD内でも人脈が広がり、私の国際活動の背景が私自身のみでなく日本部会の国際化、国際交流に僅かながらでも貢献できていると自負している。



図1 Dr. Joe Kenneallyと著者（2012年、San Francisco湾のクルーズで）

Fig. 1 Dr. Joe Kenneally and the author (San Francisco Bay cruise boat, 2012)

また私は個人的な興味で1997年にモンゴルの歯科医療を手伝うことになったが、その後はモンゴルの歯科学学生や若い歯科医師らの熱意にも動かされて、愛知学院大学とモンゴル国立医科大学（当時の名称）との交流を、大学の定年退職の時まで、ほぼ毎年モンゴルに出向いて進める機会を得た。いわゆる「一方的、一時的な援助活動」ではなく、相互的で恒久的な援助・交流を進めることとし、一時は歯学部学生のみでなく、高校生らもボランティアとして歯科治療に同行して交流を広げ、さらにはモンゴルの若手歯科医師の研

修や研究活動（歯学博士の学位取得）の支援も行なった。これらには日本口唇口蓋裂協会（JCPF）の強力な支援と後押しも頂いたが、このことはICD機関誌Globeにも紹介された。

以上、私の日本部会での活動を国際関係・活動を中心に紹介したが、本来ICDは「部会の集合体」ではなく、国際的な一つの組織であり、日本部会のフェローも「ICDフェロー」と「ワンチームの一員である」ことを誇って一層社会に貢献されることを期待し、ICD Award・特別賞を顕彰頂いたお礼に代えたい。

---

## To Be Awarded “ICD Special Award (2022)” by ICD Section VII

Past International President (2020, 2021) of ICD  
Professor Emeritus, Aichi Gakuin University

Akira SENDA, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D.

The author was awarded “ICD Award” by ICD Section VII, Japan in 2022. In the report, it is introduced that his international academic background may support and contribute to the ICD Japan Section after his induction of ICD Fellow. It is also introduced that his volunteer services of not only dental services in Mongolia, but also enhancing exchanges of students and younger dentists between Mongolia and Japan started in 1997 until 2019.

Key words : International Activity, International Contribution, Mongolia